



「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に選定 「古都奈良における

生活観光—地域資源を活用した全学的教育プログラム—

文部科学省は大学教育改革を多岐にわたって支援していますが、その一つに「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)があります。この現代GPは、社会的要請の強い政策課題(地域活性化への貢献、知的財産関連教育など)に関するテーマを設定し、これに対して各大学等が計画している取組の中から、優れた教育プロジェクトを選定し、文部科学省がサポートするものです。

本学は、平成19年度現代GPの「地域活性化への貢献(地元型)」のテーマに「古都奈良における生活観光—地域資源を活用した全学的教育プログラム—」を計画し、選定されました。

本プログラムは、本学が立地する古都奈良をフィールドに、奈良市および地域の人びとや諸団体と連携しながら、生活観光という考え方を通して、地域資源を発掘・再評価・発信するプロセスを実践的に学ぶ取組です。特に、毎年秋に行われる正倉院展での情報発信や成果発表を実施していきます。

本学では、平成17年度から「地域の変革を促す女性人材育成プログラム—歴史的市街地に立地する大学を地域社会変革の拠点とする—」(現代GP)に取り組んでいます。今回のGPは、この取組の一部を生活観光という視点から新たに発展させるものです。

「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」(学生支援GP)に選定

「チャレンジする女性のキャリア形成支援」

文部科学省から公募の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」(学生支援GP)は、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機構の充実を図ることを目的としています。

本学から申請した取組「チャレンジする女性のキャリア形成支援」は、在学生に対するキャリア形成・就職支援の充実を図るとともに、卒業生・修了生に対し、結婚・出産・育児などの女性のライフサイクルに即したキャリア形成支援を目指すもので、卒業生・修了生を支援するメーリングリストを開発し、卒業後の就職・転職のための求人情報の提供や研究職志望者に対する研究職公募情報の提供など、再チャレンジの支援を行おうとするものです。また、育児や介護、職業などに関する卒業生間の情報交換の場として、卒業生ネットワークの形成や大学と卒業生が一体となった在学生の支援やキャリア教育の改善に繋げることができ、さらなる就職支援体制の充実を図ることを目的としています。

理学部C棟・生活環境学部D棟等耐震工事

昨年度の総合研究棟(文学系N棟)等の改修工事に続いて、今年度理学部C棟・生活環境学部D棟の耐震工事が行われています。総合研究棟と同様に耐震工事に合わせ、多目的シート等を備えたトイレや授乳にも使用できるフィッティングルーム等を設置予定です。



工事中のD棟



第一体育館

また、第一体育館の耐震工事は9月に終了し、自動ドアやスロープを設け、バリアフリー化を行うとともに、シャワールームの整備も行いました。第二体育館の工事もまもなく始まります。

全ての耐震工事の完了は、来年3月の予定です。

イノベーション・ジャパン2007—大学見本市—



東京・有楽町の東京国際フォーラムにて9月12日(水)~14日(金)に開催された日本最大規模の産学マッチングイベント「イノベーション・ジャパン2007—大学見本市—」へ出展しました。

本フォーラムは、大学等研究機関の技術シーズと産業界のニーズとをマッチングさせるイベントとして開催されており、本学からは大学院人間文化研究科共生自然科学専攻(矢野教授、小幡助教)より、大学発の最先端技術シーズを7つの分野<ナノテク・材料、バイオ・アグリ、医療・健康、環境、新エネ・省エネ、IT、ものづくり>に分けて展示する「大学ゾーン」(ナノテク・材料)に「色素を連結した感圧・感温塗料用ポリマー」での研究成果を展示しました。開会セレモニー終了後、会場の扉が開かれると同時に多数の来場者が展示会場を訪れ、本学研究成果に関心を示された企業の方々も本学ブースへ多数来訪されました。また、展示会を視察されていた松浪文部科学副大臣が本学ブースに立ち寄られ、小幡助教からの技術説明を熱心に聞き入っておられました。

カフェマテマチカ ～ようこそ数学の世界へ～

独立行政法人科学技術振興機構の「地域科学技術理解増進活動推進事業 機関活動支援」に、本学が応募した事業「カフェマテマチカ」が採択されました。本事業支援は、科学技術についての興味・関心を深めるため、身近な場で行われる科学技術理解増進活動の機会を充実し、地域の児童生徒や住民を対象とした科学技術に関する体験型の学習活動を推進するため、こうした活動に取り組む大学等の活動を支援するものです。

「カフェマテマチカ」は、数学の話題を中心にしたサイエンスカフェです。黒板をできるだけ使わない、参加者を少人数で行うなど講義調にならないように雰囲気作りに気を配り、対話や議論を通して数学の理解を深めてもらおうと実施するものです。

これまで、小・中学生、高校生以上の男女を問わず、「あみだくじ・15パズルのおはなし」、「20世紀の数学が取り組んだ問題ーポアンカレ予想」等の内容で毎月1回程度実施しています。開催日時や申込方法等の詳細はHP (<http://www.math.nara-wu.ac.jp/cafemath/>) でご確認ください。



ひらめき☆ときめきサイエンス

－食のライフサイエンス：味の不思議－

独立行政法人日本学術振興会の「平成19年度『ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI～』（研究成果の社会還元・普及事業）」に、本学が応募した高校生向けプログラム「食のライフサイエンス：味の不思議」が採択されました。本事業は、現在活躍している研究者と大学の最先端の研究成果の一端を高校生等が見る、聞く、触れることで、学術と日常生活との関わりや、科学(学術)がもつ意味を理解してもらうプログラムです。

11月4日(日)高校生を対象に、「味の不思議」として、かに味・ミラクリンの体験(実習)、味を感じるしくみについての講義、舌の構造についての講義と見学等を予定しています。

平成19年度全国都市再生モデル調査

都市再生本部(本部長：内閣総理大臣、事務局：内閣官房都市再生本部)の平成19年度全国都市再生モデル調査に、本学が応募した「中心市街地に居住する大学生のコミュニティ市民化実践調査」が採択されました。本事業は、全国で展開される先導的な都市再生活動を国が財政的に支援するものです。

今回採択された「中心市街地に居住する大学生のコミュニティ市民化実践調査」は、奈良市、奈良街道まちづくり研究会、花芝商店街と共同(代表団体は本学)で、本学の寮や地域に居住する学生が、地域コミュニティの一員として活躍できる仕組みを大学と地域で協力して築こうとするものです。具体的には、地域で実施される様々な取り組み、地藏盆、手向山八幡宮転書会、正倉院展関連事業、竹送り、花芝会などに、コミュニティの一員として本学学生の参加を促していこうというものです。

21世紀COEプログラム活動状況

－古代日本形成の特質解明の研究教育拠点－

奈良女子大学21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」では、奈良国立博物館の研究者と共同研究を行っています。そのような縁から、昨年度より、同博物館が毎年開催されている夏季講座に、本拠点も共催団体として参加しています。

本年度は、9月1日(土)～30日(日)の会期で開催中の特別展「美 院政期の絵画」にあわせ、「院政期の絵画」というテーマで講座を開きました。博物館としては、第36回の開催となります。1日目の特別講演・特別展見学を皮切りに、2日目・3日目には8名の講師による講演が行われました。「院政期の絵画」をめぐる、美術史学をはじめ歴史学・文学などさまざまな角度から最新の研究成果が披露されました。晴天にも恵まれ、毎日300人を超える方々が連日参加され、盛会の内に幕を閉じました。

「女性研究者支援モデル育成」事業活動状況

－生涯にわたる女性研究者共助システムの構築－

本事業(3年間)の第2年度目に入りました。昨年度に引き続いて母性支援相談室を設置し、カウンセラーによる相談業務を行っています。育児支援Webシステムは試験運用に向けて改良中です。



8月に子育て支援サポーター養成講座(計10回)を開講し、受講者のために託児を実施しました。教育研究支援員制度は18名の女性教員が利用し、29名の支援員が活動しています。8月6日には、内閣府・奈良県主催による奈良サイエンス・カレッジに協力し、研究室訪問プログラムを実施し、参加女子高校生たちには大変好評でした。昨年度女性研究者支援モデル育成事業に採択された4女子大学が9月29日に日本女子大学で合同シンポジウムを開催しました。富崎教授が本学の取組みを紹介し、奈良准教授がパネリストとして参加しました。学内で科学講演会、科学講座も既に数回開催し、本学科学週間(11月2日～18日)では、柳澤純氏(筑波大学大学院教授)の講演会など、様々なイベントを実施する予定です。

魅力ある大学院教育イニシアティブ活動状況

－先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成－

現在2年目を迎えた本プログラムは、統合的教育課程の導入により加えられた内容・形態ともにバラエティに富んだ「キャリア形成科目」と研究者育成支援制度(イニシアティブRA制度、国内外の学



梨花女子大学との研究交流発表会・研究会への参加支援、共同研究者訪問支援、博士研究員のフェローシップ化などを大きな柱としています。学生の皆さんには、基礎科学的専門性に立脚しつつ、分野横断的な知識の習得と自立性、企画・実践力、国際性(英語能力を含む様々なスキル)といったトータルな素養を高める為の仕組みを大いに活用していただいています。また、授業の一環として開催された、個性的で活動的な国内外の女性研究者と学生の座談会や協定校の韓国・梨花女子大学との研究交流発表会では、妻、母親、研究者の立場から大変参考となる事例の紹介や、同じ世代として学ぶ女性同士の意見交換が行われ、大変好評でした。

今年度は、本プログラムの区切りの年にあたります。これからも、本教育研究プログラムの趣旨に沿った様々な企画を展開していきます。(http://www.nara-wu.ac.jp/initiative-MPI/)

若手女性研究者支援経費採択通知式

今年度の若手女性研究者支援経費採択者に対する採択通知式が、6月26日(火)学長、両副学長、大学院人間文化研究科長出席のもと開催されました。



採択通知式

この支援経費は35歳未満の大学院博士後期課程2回生以上の優秀な学生等に対し、その研究活動を支援するために、平成17年度から実施されています。3年目である今年度初めて採択通知式が開催され、久米学長から採択者ひとりひとりに採択決定通知書が渡された後、「新しい発見があることを期待しています」との学長挨拶がありました。21名の採択者は「奈良女子大学大学院奨励研究員」の名称を付与され、研究支援経費が配分されます。

オープンキャンパス

7月28日(土)に、本年第1回目のオープンキャンパスが開催されました。天候にも恵まれた当日は、受付や相談コーナー等の教職員や在学生協力者が『STAFF』と表示された揃いのポロシャツ・Tシャツを着用して、1,500名を超える参加者を出迎えました。

9時30分から久米学長の歓迎の挨拶、入試課長による本学現況の映像による紹介の後、各学部では、模擬講義、学科の特色に関する詳細説明や研究紹介、社会の第一線で活躍している本学卒業生による講演、在学生によるキャンパスツアー等々、様々な催しが行われ、参加者は、奈良女子大学の多様な活動の状況や、緑と世界遺産に囲まれた大学の環境に触れ、より一層入学の意欲を増したようでした。

在学生相談コーナー
(揃いのTシャツで応対)

—東京での大学説明会—

8月4日(土)東京都内で初めて、高校生等入学希望者向けの大学単独の説明会を開催しました。「奈良県代官山i(アイ)スタジオ」を会場に、都内及び周辺各県、遠くは新潟県や静岡県の高校生及び保護者の参加がありました。



同窓会からの活動紹介

11時、井上副学長による「大学への序奏—未来の貴女はどこにいる—」の講演に始まり、佐保会東京支部長から在学生支援・大学支援を中心とした活動の紹介、入試課長から本学現況の映像による紹介・説明、希望者のための個別相談会へと続き、最終午後3時まで開催されました。個別相談では、各学部教員が応対し、参加者の入学や入学後の勉学、大学生活に関する疑問や不安に答えました。



個別相談会

参加者は、映像による紹介を見たり、直接話を聞いたりしたことで、「パンフレットだけでは掴みきれない大学の様子をより知ることができた。」「ますます入学したくなった。」と好評でした。

近畿地区国立大学体育大会

～硬式テニス部が初優勝～

近畿地区の国立大学において、学生の課外活動の健全な発展を図るとともに相互の親睦に資することを目的とした「近畿地区国立大学体育大会」が毎年8月に開催されています。第45回目の今年度は大阪教育大学を当番大学として8月7日(火)～25日(土)に開催され、熱戦が繰り広げられました。



初優勝を飾った硬式テニス部

本学は8種目にエントリーし、総合成績では女子の部5位と大健闘しました。また、種目別では硬式テニス部が見事に初優勝を飾り、卓球部が準優勝、水泳部が4位と好成績を収めました。

関西合唱コンクール

—音楽部が金賞—

第62回関西合唱コンクール(関西合唱連盟、朝日新聞社主催)が10月8日(月)兵庫県伊丹市立文化会館いたみホールで開催され、音楽部が大学部門Aグループ(32人以下)において金賞を取るとともに、学生指揮者賞にも選ばれました。

奈良漬プロジェクトの奈良のご当地アイス



生活環境学部現代GPのアドバンスプログラムとして取り組んでいる「奈良漬プロジェクト」が、6月に奈良女子大学、植村牧場株式会社、JA奈良支店朝市組合の3者共同で奈良県の「新商品・サービス開発事業」に採択されました。『大和野菜と奈良漬を使ったこだわりスイーツの開発』というプロジェクトで共同開発した、大和野菜(大和まな、小しょうが)と奈良漬のアイスモナカと奈良漬クッキー入りカップアイスの計4種類の奈良のご当地アイスクリームを、燈花会の期間中(8月5日(日)～12日(日))三条通りJAアンテナショップ前で限定販売しました。期間中、奈良漬プロジェクトの学生が中心に販売し、新しい奈良の味と大好評でした。

食教育推進フォーラム

～子どもの明日を拓く食教育Ⅱ～

8月24日(金)、本学において「食教育推進フォーラム～子どもの明日を拓く食教育Ⅱ～」が開催されました。本フォーラムは、昨年4月に立ち上げられた食教育研究推進本部主催によるもので、今年で2回目の開催となります。当日は、全国各地から教員、学校給食関係者、子どもの保護者等、約600名の参加があり、食教育への関心の高さがうかがえました。フォーラムは、まず講堂で文部科学省スポーツ・青少年局の井上健康教育企画室長及び、丸谷相愛大学教授の講演が行われ、その後会場を総合研究棟(文学系N棟)に移し、5つの分科会に分かれてテーマごとに講演及び模擬授業、質疑応答等が行われました。分科会は、本学附属幼稚園児が参加する食のいとなみ体験から、フランス料理のシェフが語る講演、若い女性の「やせ」問題、生活習慣病に至るまで多岐に渡り、参加者はそれぞれの分野で熱心に聞き入っていました。





国際交流協定の締結 —台湾・国立清華大学と新たに大学間交流協定を締結—

8月24日(金)に国立清華大学<台湾>と大学間交流協定を締結しました。国立清華大学は、卒業生にノーベル賞受賞者を輩出しており、台湾における大学評価の最高峰の総合大学です。

これにより、本学が交流協定を締結している海外の大学は、計29大学(うち部局間協定は4大学)となりました。

海外での留学フェア <台湾・韓国>

今年も、留学フェアに参加し、日本留学を目指す多くの学生に奈良女子大学をアピールしてきました。台湾では、今年3月に大学院を修了した学生が応援に駆けつけてくれ、熱心に母校の宣伝をしてくれました。

また、韓国では、梨花女子大学からの交換留学生が、帰国後に協力を申し出てくれました。いずれも、説明に熱が入り、誇りを持って母校としての奈良女子大学を見てくれていることをひひしと感じています。

11月には、ベトナムでの留学フェアに参加予定です。



台湾高雄会場



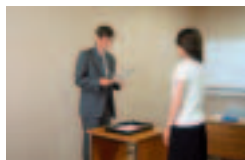
阿波おどり会館にて

外国人留学生実地見学旅行

日本の歴史・文化・自然等について理解を深め留学生相互の親睦を図ることを目的として、今年度は淡路・鳴門方面への見学旅行を実施しました。悪天候の予報に予定していた地引網・バーベキューが中止になったのが、残念ではありましたが、渦潮を真上から見学したり、人形浄瑠璃を観劇したり、阿波踊りの体験では優秀賞をいただくほど上手に踊る学生もいました。おみやげには、自分で作ったハーブ石鹸やお香を持ち帰ることもでき、楽しく有意義な一泊二日の旅行でした。

国際交流基金奨学金授与式

本学の創立90周年を期に同窓会である社団法人佐保会の支援により設立した奈良女子大学国際交流基金(平成12年度設立)をもとに、外国人留学生及び協定校への派遣留学に対する奨学事業を実施し、今年度までの奨学金被授与者は、延べ88名にのぼっています。



学長から一人一人に

今年度の奨学金採用決定通知書授与式では、久米学長から対象者に決定通知書を授与するとともに、基金設立の趣旨や事業実施の経緯等につ

いての説明の他、被授与者各位の活躍について激励の言葉がありました。その後、列席の清水副学長、井上副学長等を交え、被授与者との懇談が行われました。

—使途報告—

平成19年度は、次のとおり留学生等に対し支援を行う予定です。

- 外国人留学生奨学金 9名(博士後期課程2名、博士前期課程7名) 一人月額4万円 1年間 合計 432万円
- 派遣留学奨学金 6名 一人10万円 合計 60万円
- 留学生スピーチ大会援助 発表者に一人1万円の図書カード 10名分 合計 10万円

国際交流往来

★5月30日(水) 久米学長が台湾・国立清華大学を訪問し、学長を表敬しました。

☆そして、協定締結のため、8月24日(金)国立清華大学陳文村学長が来学されました。清華大学は、理工系の強い大学でもあることから、本学理学部教員との懇談や施設見学も行いました。



説明を受ける陳学長



堀内教授講演の様子

☆バリ・ディドロバリ第7大学・東アジア言語学部日本語学科堀内美都教授を7月23日(月)～24日(火)招聘し、日本の大学との交流の現状についてミニ講演会を開催しました。

☆トリア大学のシュヴェンクメツガー学長らが9月28日(金)、学長を表敬訪問されました。



シュヴェンクメツガー学長と

—交流協定大学への教員派遣—

昨年度に引き続き、南京大学及び蘇州大学への教員派遣事業を行いました。国際交流センター主催の本事業では、学生を同道して教室運営や教授法等の研修を行うとともに、現地大学の学生との交流を通して異文化の理解や国際的視野の醸成を図ることを目的としています。

★9月17日(月)～9月26日(水) 岩崎生活環境学部教授が学生2名を同道し、蘇州大学で服飾史について講義を実施しました。



弦巻教授の講義風景

★9月18日(火)～9月25日(火) 弦巻文学部教授が学生2名を同道し、南京大学で泉鏡花の作品を中心に講義等を実施しました。

短期語学研修実施

南京大学での語学研修が終了しましたが、続いて、ニュージーランド・オークランド大学での語学研修の実施計画があります。学生の英語力増進のため、2008年2月18日(月)から3月14日(金)の4週間の研修を予定しています。南京大学での研修同様、学習成果が期待されます。

編集・発行 奈良女子大学広報企画室

編集責任者 清水哲郎(副学長)

連絡先 奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205

E-mail admin@jimu.nara-wu.ac.jp

